

## 巻頭言

## 次世代研究活動推進委員会始動に寄せて



田高 悦子

日本地域看護学会 副理事長／北海道大学大学院保健科学研究院

日本地域看護学会誌, 25 (2) : 3, 2022

COVID-19感染症をはじめ、さまざまな災害や健康危機の脅威のなかにあった2021年度にあって、学会としての歩みを止めることなく、むしろ魅力ある学会づくりに向けて、本学会がさらに前進することを目標に、宮崎美砂子理事長のリーダーシップのもと、理事会総意で本学会に新たに戦略的な2大チームが設置された。1つは、「活動推進エンジンチーム」であり、もう1つは、「次世代研究活動推進チーム」である。

次世代研究活動チームのミッションは、地域看護学の再定義(2019)に際して見据えた2040年の日本はもとより、世界の人々の健康と環境の変化を予測し、かつ適切に対応するため、本学会が重点的に取り組むべきリサーチアジェンダおよびそのアジェンダ達成のための戦略を明確にすることである。チームの構成員は、田高悦子(筆者)、石丸美奈理事、大森純子理事、蔭山正子理事、永田智子理事の5人である。5人は、本学会創立初期に入会以来、いわば、本学会に育てられた同世代(推定)の研究者である。現在は、理事の立場であるが、自らも含めた次世代の研究活動推進はもとより、本学会の前進に向けて、意気揚々と任にあずかり、全理事、監事、代議員、会員ならびに事務局の力も得て、所期の目的を達した。成果物は、①「地域看護学定義に基づく2040リサーチアジェンダ24」ならびに②「2040リサーチアジェンダ24の達成にむけた戦略の柱」である<sup>1)</sup>。

①は、地域看護学の再定義(2019)に包含された、①人々の生活の質、②包括性、③継続性の観点から、かつ地域看護学の対象である個人・家族・集団・社会全体を勘案し、重点的に取り組むべきリサーチアジェンダ24テーマを提示した。リサーチアジェンダ24を枠組む四要素(四辺)は、本アジェンダにおける目標として「地域看護学の教育・研究・実践・管理・政策におけるイノベーション」、主な手法として「研究デザインの精練・データ活用・方法論の構築・理論生成・技術開発・プログラム開発・モデル構築・システム構築」、主なパートナーとして「住民や地域との協働」と「多学術領域との協働」からなる。②は、2本の柱からなり、1つの柱は、「新たな地域看護学の教育・研究・実践・管理・政策における開発と評価」であり、もう1つの柱は、「住民、実践者、教育・研究者等、地域におけるネットワークの形成と強化」である。なお、各柱のもとに、具体的に想定しうるさまざまな取り組みや事業の例も検討した。

「地域看護学定義に基づく2040リサーチアジェンダ24」ならびに「2040リサーチアジェンダ24の達成にむけた戦略の柱」は、2022年度社員総会において新規に設置された「次世代研究活動推進委員会」(蔭山委員長、石丸副委員長)に継承された。いよいよ始動のときである。次世代研究活動推進委員会のリードのもと、会員一丸となり、1つでも多くのアジェンダに取り組みたい。日本地域看護学会、前へ!

## 【文献】

- 1) 日本地域看護学会: 「地域看護学定義に基づく2040リサーチアジェンダ24」「2040リサーチアジェンダ24の達成にむけた戦略の柱」, <http://jachn.umin.jp/committee12.html> (2022年8月1日)。